

パネルディスカッション4

「原因不明な消化管出血（小腸限定）の治療戦略」

司会 山本 博徳（自治医科大学内科学講座消化器内科学部門）

藤森 俊二（日本医科大学千葉北総病院消化器内科）

原因不明消化管出血の出血源である可能性のある病変を小腸に認めた場合、病変治療後に止血が得られるのか経過観察が必要となることが多い。血管性病変では内視鏡治療が試みられることが多く、止血困難な場合に血管内治療、手術療法が選択されると考えられる。血管性病変を含む様々な病変の治療後の消化管出血の再発率、内視鏡で高率に止血できる病変や手術を要した病変の特徴、治療による偶発症などを明らかにすることにより、治療の適応と限界を明らかにしたい。多様な視点から多くの演題を期待する。